奈良川源流域の植物　2009 年～2013 年　3 月

オニタビラコ(キク科) 高さ 20～100 センチで、根生葉はロゼット状につき、羽状に深裂する。

ヤブタビラコ(キク科) 高さ 20～40 センチで全体に柔らかく、軟毛が多い。

フキ (キク科) 早春に蕾だけ(フキノトウ)が出て筒状花を散房状に咲かせ、後から柄の長い葉が出る。

モミジイチゴ(バラ科) 葉は掌状に 3～5 裂し、白い花を下向きに咲かせる。

カラスノエンドウ(マメ科) 偶数羽状複葉の先が巻きひげになる。

カキドオシ(シソ科) 葉は腎円形で鈍い鋸歯があり、淡紫色の唇形花をつける。

ナズナ(アブラナ科) 三味線のバチのような実がつくのでペンペングサともいう。

ショカツサイ(アブラナ科) 花は淡紫色で葉が茎を抱く。

タチツボスミレ(スミレ科) 葉はハート形で花に茎があり托葉は櫛の歯のようである。

アオイスミレ(スミレ科) 葉が円心形で、花は白に近い薄紫色で、側弁が前に突き出る。

ノジスミレ(スミレ科) 葉が細長く、葉や花弁の縁が不規則に波打つ。

ヒメヨツバムグラ(アカネ科) 葉が4枚輪生し、葉腋から出る細い花序に淡緑色の花がつく。

ミドリハコベ(ナデシコ科) 茎が緑色。（コハコベは茎が赤褐色）

オランダミミナグサ(ナデシコ科) 花は先の割れた5弁で、短時間しか咲かない。

トウダイグサ(トウダイグサ科) 杯の中に小さい花がいくつもある杯状花序で、葉はへら形をしている。

ケキツネノボタン(キンポウゲ科) そう果の先はキツネノボタンのようにはまがらない。

スズメノカタビラ(イネ科) 全体が 20 センチぐらいで柔らかく、小穂は白緑色で菱形である。

スズメノヤリ (イグサ科) 根生葉の縁から長い白毛がのび、花茎の先に赤褐色の花序がつく。

コナラ (ブナ科、上) と**クヌギ** (ブナ科、下) 葉には鋸歯があり、クヌギではその先に針がある。

ヒサカキ雄花(ツバキ科) 小さい鐘形の花を多数下向きにつける。雄しべが多数ある。

ヒサカキ雌花(ツバキ科) 花柱の基部がふくらんでいる。

トサミズキ (マンサク科) 垂れ下がった穂状花序に黄色い花が 10 個近くつく。